

5/13 木

マイナ保険証誤登録7300件

別人医療情報閲覧5件

健康保険証がマイナンバーカードと一体化した「マイナ保険証」を利用した際、別人の医療情報を閲覧されたケースが5件あったことが12日、厚生労働省の調査で分かった。医療保険を運営する健康保険組合などによると、誤登録が2021年10月から22年11月末までに全国で約7300件あった。

とが原因。既に正しい情報に修正したところ、加藤勝信厚労相は記者会見で「ミスが起らないよう、これからも注意していく」と述べた。

個人情報漏えいの懸念が現実化し、カードの信赖が揺らぐ形となつた。

総務省は12日、マイナカードを使って住民票の写しなどをコンビニで受け取れ

るサービスについて、別人の証明書が誤交付されたケースを徳島など計4市・区で延べ14件確認したと明らかにした。

保険証との一体運用はカードの利便性を向上させるため21年10月から本格的に始めた。健保組合などがマイナ保険証の情報を登録する際、誤ったマイナンバーを入力したのが原因とみられる。

専用サイト「マイナポータル」などで、別人の処方箋や医療費といった情報を閲覧されたケースが5件あつた。厚労省は関係機関と連携し、生年月日や名前の一括登録を実現して、登録に誤りがないかどうか点検を徹底するとしている。

コンビニ誤交付の内訳は東京都足立区が2件、横浜市10件、川崎市1件、徳島市1件。徳島市のケースでは戸籍全部事項証明書の一部情報が漏洩された。12日の参院地方創生・デジタル特別委員会で、立憲民主党の杉尾秀哉氏の質問に総務省が答弁した。

総務省は、全国の自治体と委託業者に関するシステムの点検を要請した。不具合が判明した富士通Japan（東京）以外でも同様の事態が起きていないかどうか確認する。富士通Japanと富士通本社には、事実関係を聴取した上で再発防止を求めた。

マイナンバーカードの主な使い道

- ・健康保険証と一本化し、現行の保険証は2024年秋に廃止

- ・運転免許証と24年度末までに一体化

- ・介護保険証と将来的に一体化

- ・コンビニで住民票写しなど交付

- ・本人確認機能を利用したイベントチケットなどの高額転売防止

- ・確定申告などオンラインによる行政手続き

- ・セルフレジで酒やたばこ購入